

文庫あれこれ◆11月6日金曜日、冬に突入したかと思っただけの寒さも一段落。今日は日本全土、秋晴れのさわやかな暖かい一日でした。◆各地から紅葉狩りの便りが聞かれます。新緑と言ひ、紅葉と言ひ、自然は何と私たちの目を輝かせてくれることでしょう!◆皆さん、今年の読書の秋はどんな本を読みましたか。◆情けないかな、私は、未だ、本を買う人で終わっています。◆今回は、テレビの影響で、司馬遼太郎と山崎豊子の多巻ものなど文庫本を多く入れました。◆次女が仕事の都合で夫より半年遅れて夫の任地アメリカに発ちました。愛犬連れて。出発前の1ヶ月我が家に寄宿したのですが、巣立った子どもと暮らすのは、お互いに骨の折れることで…。生活のリズムは違ひ、食事の好みも違ひてしまっているし、誰に似たのか整理整頓大好き人間になって、私が広げる先からさっさと片付けてくれて、テーブルいっぱい広げて仕事をするのが好みの私には、痛し痒し、情けなくも居心地悪し、でした。しかし、アラフォーの女性を観察でき、大人でしっかりしていて、安心できたのは収穫でした。◆先月の「秋の夜長のおはなし会」には、いつも来てくださる常連会員さんたちに混じって N さんの読書会仲間の方が遠方から6人も聴きにきてくださいました。文庫発「おはなし・沙羅」の面々が思い思いにグリムのおはなしをしてくれました。今回練習期間が短かったのにみんな頑張っって良いおはなし振りでした。そして、きわめつけは、吉川さんの朗読。読んだだけでは到底味わえない幸田露伴・文・青木玉親子三代のやりとりが、吉川さんの肉声を通して目の前に当人達がいるかのように感じられ、昭和のよき時代を懐かしく思い出させてくれました。◆雑誌『子どもと読書』(11,12月号「よかったよ、この本」欄)に文庫の仲間、小3の大橋ゆりなちゃんが本の紹介をしてくれています。文庫にあります、読んでください!◆「赤ちゃんと絵本であそぼう!」『絵本であそぶーちいさな子とあかちゃんのために』という2冊の本が出ました。実践記録がたくさん。文庫にもありますが、子育て中のママさん、ボランティアのみなさん、1冊持っていると思ひます。併せて、『読みかせ絵本 260(高学年向)』もどうぞ。これは西村が編集しました。◆来月はクリスマス会です。こぞってご参加ください。お風邪を召しませんよう! (西村)

“ “これからの催し物のお知らせ” ”

クリスマスお楽しみ会・おはなし会

みんないっしょに!

日時 12月20日(日) 午前10:30~12:00

会場 沙羅の樹文庫
対象 子どもも大人も会員全員
参加費 300円程度のプレゼント

★プログラム★
おはなし

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

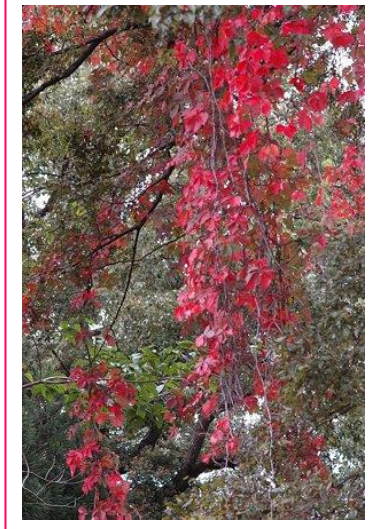
- ◆12月は通常。19日(土)、20日(日)
 - ◆10年1月は通常。16日(土)、17日(日)
 - ◆10年2月は通常。20日(土)、21日(日)
 - ◆10年3月も通常。20日(土)、21日(日)
 - ◆文庫の時間：土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時
 - ◆毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。午前10:30~11:00
 - ♥文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日でなく第2土曜日ということもあります)。
- 《楽しんで読み聞かせ・頑張っっておはなし》
みんなで勉強会(おはなしの会・沙羅)
★12月19日(土)11時~です。おはなしの勉強会のほか、クリスマス会おはなし会の打ち合わせをします。

連絡先：沙羅の樹文庫 電話 0557-51-8737

沙羅の樹文庫便り

No.39

(2009年11月号)



アメリカつたの紅葉

その名は 秋

その名は 秋

その色は 地丘にのびる動脈
道沿いに静脈 小路に大きな血の玉
風が窪地を吹きあげ
緋の雨をふらすと ああ 血染の驟雨
帽子をいっぱい 遙か下に撒きちらし
赤い溜まりをあつめる
やがて 秋は薔薇のように渦巻いて
朱色の車輪に乗って去っていく

エミリ・ディキンソン

1) **デイビッド・リーフ「死の海を泳いでースーザン・ソクタグ最後の日々」** 一上岡伸雄訳 岩波書店 2009

表紙のスーザン・ソクタグの写真、日本人には一寸居そうもないような強烈な個性を示した女性の顔。そう、スーザンは知性の権化のようなユダヤ人であった。ニュートン、マルクス、アインシュタイン、フロイト、世界の見方を変えるようなとてつもない知性の巨人はなぜユダヤ人のなかから出てくるのだろうか。

彼女は徹底的に合理的な思考しか持ち合わせなかった。こんな女性が、まず乳癌にかかり、末期癌であったが、考える全ての治療法を試みて、ついにそれを克服した。しかし10年以上経って今度は卵巣癌が襲った。今度も最高度の治療法で克服。しかしその治療法の副作用で血液の癌の危険があることを指摘されていたが、最後にその血液の癌になってしまう。医者は「治療法は無い」、と言ったが、彼女は納得しない。周囲は、せめて quality of life を採用して最後を少しでも安楽にと言ったが、彼女はそれも拒否して徹底的に病と闘うことを選び、あらゆる可能性を試してくれと医者に頼む。もちろん、宗教に救いを求めるようなことは「まやかし」として断固として断る。そして末期癌の苦痛の中で死ぬ。著者は彼女の息子で、実に見事な文章で母親の死ぬまでを叙述している。たとえば、『「死は自己から脱却しない限り耐え難いものである」と母は書いている。しかし、人生であるようにたくさんのことを成し遂げてきた母が、それだけはどうしてもできなかった。』と。

2) **辺見 じゅん著「収容所（ラーゲリ）から来た遺書」** 文芸春秋 1990

第二次世界大戦後、ソ連に連れ去られた日本のシベリア捕虜のうち、特別の履歴がない普通の元兵隊たちは3年くらいで帰国してきた。しかしソ連側がマークした、元高級軍人(例えば元陸軍参謀 瀬島龍三氏などが有名だが)、元憲兵、元情報関係者、などは長く留め置かれた。これは昭和31年(1956年)12月25日、終戦後11年経ってようやく収容所から解放されて帰国した人たちのもたらした驚嘆すべき物語である。主役はもと満州国の情報関係で働いていたため、永らく収容所に幽閉され

ていた山本幡男氏。地獄のような収容所の中で、彼は決して希望を捨てず、こっそり俳句の句会を作って捕虜たちの心を支えてきた、とてつもなく面白い人物で、みんなの人望を集めていた。しかし運悪く解放・帰国のすぐ前に、収容所でガンのために死亡。死の床で彼は家族などに3通の遺書を書いたが、ソ連側は帰国する捕虜たちに一切の記録文書を持ち出すことを許さなかった。驚くべきことは、彼の遺書3通は何と捕虜の友人たちの共同作業による暗記で持ち帰られたのだ。帰国した元捕虜たちは記憶にあるその遺書を文書に再現して、奥さんの山本モジミさんに届けた。最後に届けられたそのうちの1通はなんと昭和62年の8月だったという。

3) **佐野 眞一著「沖繩 だれにも書かれなくなかった戦後史」** 集英社 2008

654ページもあるこの本、まず表紙の写真が良い。おかつばの幼女がこちらをぎろりと睨んでいる。不信と憎悪の目。

この著者のノンフィクションものは皆面白いが、この本はやたらに面白く、なかなか途中で止められない。沖繩県民を聖者化しがちな『大江(健三郎)や、これに同調する筑紫哲也の話題が出るたび、心ある沖繩人たちから、「われわれを」褒め殺し「するの、もういいかげんにしてくれ」という台詞が出る』——ことを出発点として、我々が「ひめゆりの塔」から連想するかわいそうな犠牲者としての沖繩人でなく、人間の悪と灰汁を遠慮なく撒き散らして、驚くほどたくましく、人間くさく、底抜けに明るく生きている沖繩の人たちが描かれている。(09.11.04)

親子で読むのにおススメ本

『ふしぎやさん』(林原玉枝作 はらだたけひで絵 アリス館 08) 同じ作者の『森のお店やさん』もいろいろな動物がお店を開くふしぎなたのしい世界を描いた短篇でいっぱいでしたが、この本も同じ画家さんの心がほかほかする色彩の挿絵が物語を彩ってくれます。「ふしぎやさん」て何をやる人かしら?楽しみです。おかあさん!子どもといっしょに春、夏、秋、冬、自然の中の小さな動物たちの世界を覗いてみましょう。

あなたも読んでみてください!

『私小説 from left to right』(水村美苗 筑摩文庫 09)

この本は、著者が12歳で家族と渡米し、早20年を経たある雪のしんと降る日、マンハッタンの姉と電話でお互いの近況を話すシーンから始まります。

姉と話しながらこの20年に起こった諸々の出来事を回想するのですが、この本を通して一貫して語られるのは、「英語で話す私」と「日本語で話す私」の自分がいて、それは、根のない抛り所のない不安定な異文化、異人種の間で生きている著者自身の、そこにある深い深い孤独です。

そしてそれが、必然的に日本への帰国、日本語での文筆活動への思いとなっていきます。

文庫便り No.37 で Mr.森林浴さんも書いていらっしゃいます、「よい小説は読者を何かの意味で主人公に同感、同情、共感させるもの…」と。まさにこの本は私をして、同感、共感させたのです。英語圏で5年ほど暮らしたことがあります、その時、やはり「英語で話す私」は本当の自分でなく違う世界、物語の中、実体のない私、という思いが常につきまとっていたことを思い出します。ですから、この本には強く惹かれました。そして、アメリカ、特に東部(著者もこれももし西海岸だったら違っていたかもしれないと言っています)で生きて行くには孤独に打ち勝つ確かなものがなければ自分に負けてしまう、という恐ろしさを、読みながら痛感しました。それから、著者は1990年に「續 明暗」を書いています、何故若い女性が書いたのかという私の謎が、この本を読んで解けましたし、納得もしました。

この本は、私にとって単なる私小説ではなく、アメリカで生きている人々の孤独、異文化、異人種、白人、有色人種の中の日本人…と、いろいろ考える縁になり、それと共に、何かとてもなつかしい思いを憶えました。(森川 理恵)

『月あかりのおはなし集 正・続』(アリソン・アトリー作 こだまともこ訳 いたやさとし絵 小学館 08) あたたくてふしぎなおはなしばかりです。年長さんから2,3年生まで、読み聞かせてあげてください。親子で、しんみり、ほこほこ、ワクワクできます。一話ずつ寝る前に、おススメです。

『うちにあかちゃんがうまれるの』(いとうえみこ文 伊藤泰寛写真 ポプラ社 05) 家族全員で見守ったおかあさんの出産。赤ちゃんはお風呂の水中出産で生まれました! おとうさんが写真をとっておかあさんが文を書いて、お兄ちゃんがへその緒を切りました。☆偶然そのおかあさんが私の絵本の講座に参加していました。この赤ちゃんもう、5歳の腕白さんですって。

11月に入った新刊・既刊

子どもの本

『ちょうちんまつり』『ビバリーとしょかんへいく』『どこへいったの、ブルーカンガルー?』『おぼけドライブ』『こころ(考える絵本1)』

『ふしぎやさん』『続 月あかりのおはなし集』『ハロウィーンの魔女ティリー』『トーマの心臓』『魔使いの戦い 上下』

クリスマスの本

『メリークリスマス、ペネロペ!』『ミッケ3 クリスマス』『ミグのクリスマス』『クリスマスの12にち』『ナイトメア・ピフォア・クリスマス』『たのしいおまつり』『ちいさなもみのき』『森でいちばんのクリスマス・ツリー』『ロッタちゃんとクリスマスツリー』『アンナの赤いオーバー』『きかんしゃトーマスのクリスマス』『サンタクロースはおばあさん』『サンタクロースとぎんのくま』

『ふたりはクリスマスで』『シモンとクリスマスねこ』『クリスマス』『いそがしいクリスマス』『ウォートンのとんだクリスマス・イブ』

大人の本

『不毛地帯1~5』『沈まぬ太陽1~5』『坂の上の雲1~8』『翔ぶが如く1~10』『ジェネラル・ルージュの凱旋上下』『昭和史1926~1945、1946~1989』『月のしずく』『和歌とは何か』『氷姫エリカ』『花散らしの雨』

『ヘヴン』『きのうの神さま』『私の赤くて柔らかな部分』『鶴屋南北の恋』『おわり雪』『田村はまだか』『昭和二十年夏、僕は兵士だった』『赤い手袋の奇跡 サラの歌』『「東京裁判」を読む』『心の持ち方』『人生を好転させる』『この「くに」の面影』『粗大ゴミからの脱出—それ行け ちよさん 93歳』

『図書館ねこデューイ』『天からの贈り物』『生き方上手』『美しい朝』『ポッカリ月が出ましたら』『半島へふたたび』

『事件』『おとうと』『子どもたちに語るヨーロッパ史』『いちげんさん』ほか

大人のクリスマス本：『クリスマスイブの出来事』『赤い手袋の奇跡』『あるクリスマス』『サンタクロースにインタビュー』

漫画：『あさきゆめみし1~7』（源氏物語から）

11月に入った新刊・既刊

子どもの本

『ちょうちんまつり』『ビバリーとしょかんへいく』『どこへいったの、ブルーカンガルー?』『おぼけドライブ』『こころ(考える絵本1)』

『ふしぎやさん』『続 月あかりのおはなし集』『ハロウィーンの魔女ティリー』『トーマの心臓』『魔使いの戦い 上下』

クリスマスの本

『メリークリスマス、ペネロペ!』『ミッケ3 クリスマス』『ミグのクリスマス』『クリスマスの12にち』『ナイトメア・ピフォア・クリスマス』『たのしいおまつり』『ちいさなもみのき』『森でいちばんのクリスマス・ツリー』『ロッタちゃんとクリスマスツリー』『アンナの赤いオーバー』『きかんしゃトーマスのクリスマス』『サンタクロースはおばあさん』『サンタクロースとぎんのくま』

『ふたりはクリスマスで』『シモンとクリスマスねこ』『クリスマス』『いそがしいクリスマス』『ウォートンのとんだクリスマス・イブ』

大人の本

『不毛地帯1~5』『沈まぬ太陽1~5』『坂の上の雲1~8』『翔ぶが如く1~10』『ジェネラル・ルージュの凱旋上下』『昭和史1926~1945、1946~1989』『月のしずく』『和歌とは何か』『氷姫エリカ』『花散らしの雨』

『ヘヴン』『きのうの神さま』『私の赤くて柔らかな部分』『鶴屋南北の恋』『おわり雪』『田村はまだか』『昭和二十年夏、僕は兵士だった』『赤い手袋の奇跡 サラの歌』『「東京裁判」を読む』『心の持ち方』『人生を好転させる』『この「くに」の面影』『粗大ゴミからの脱出—それ行け ちよさん 93歳』

『図書館ねこデューイ』『天からの贈り物』『生き方上手』『美しい朝』『ポッカリ月が出ましたら』『半島へふたたび』

『事件』『おとうと』『子どもたちに語るヨーロッパ史』『いちげんさん』ほか

大人のクリスマス本：『クリスマスイブの出来事』『赤い手袋の奇跡』『あるクリスマス』『サンタクロースにインタビュー』

漫画：『あさきゆめみし1~7』（源氏物語から）

11月に入った新刊・既刊

子どもの本

『ちょうちんまつり』『ビバリーとしょかんへいく』『どこへいったの、ブルーカンガルー?』『おぼけドライブ』『こころ(考える絵本1)』

『ふしぎやさん』『続 月あかりのおはなし集』『ハロウィーンの魔女ティリー』『トーマの心臓』『魔使いの戦い 上下』

クリスマスの本

『メリークリスマス、ペネロペ!』『ミッケ3 クリスマス』『ミグのクリスマス』『クリスマスの12にち』『ナイトメア・ピフォア・クリスマス』『たのしいおまつり』『ちいさなもみのき』『森でいちばんのクリスマス・ツリー』『ロッタちゃんとクリスマスツリー』『アンナの赤いオーバー』『きかんしゃトーマスのクリスマス』『サンタクロースはおばあさん』『サンタクロースとぎんのくま』

『ふたりはクリスマスで』『シモンとクリスマスねこ』『クリスマス』『いそがしいクリスマス』『ウォートンのとんだクリスマス・イブ』

大人の本

『不毛地帯1~5』『沈まぬ太陽1~5』『坂の上の雲1~8』『翔ぶが如く1~10』『ジェネラル・ルージュの凱旋上下』『昭和史1926~1945、1946~1989』『月のしずく』『和歌とは何か』『氷姫エリカ』『花散らしの雨』

『ヘヴン』『きのうの神さま』『私の赤くて柔らかな部分』『鶴屋南北の恋』『おわり雪』『田村はまだか』『昭和二十年夏、僕は兵士だった』『赤い手袋の奇跡 サラの歌』『「東京裁判」を読む』『心の持ち方』『人生を好転させる』『この「くに」の面影』『粗大ゴミからの脱出—それ行け ちよさん 93歳』

『図書館ねこデューイ』『天からの贈り物』『生き方上手』『美しい朝』『ポッカリ月が出ましたら』『半島へふたたび』

『事件』『おとうと』『子どもたちに語るヨーロッパ史』『いちげんさん』ほか

大人のクリスマス本：『クリスマスイブの出来事』『赤い手袋の奇跡』『あるクリスマス』『サンタクロースにインタビュー』

漫画：『あさきゆめみし1~7』（源氏物語から）